



秋の永代経法要の ご案内

十一月十二日（水）

昼一時半

夜七時半

十一月十二日（水）

昼一時半

講師 美祢市明厳寺住職

中島昭念 師

えいたい きょう ほうよう 永代経法要とは



住職が子どもの頃は、山を走り回って遊んでいました。しかし、今は大人でもなかなか入ることができません。なぜなら、山に入る人がいなくなったことで、道がなくなってしまったからです。先に行く人が踏みしめる歩みによって、道はできるのです。

私たちのところにまで、お念仏の教えが伝わってきたのも、先だつてこの道を歩まれたご先祖があるから、志を納めお寺を護つてこられた先輩方があるからなのです。そして次に歩む者がなければ、道は途絶えてしまいます。

永代経法要とは、永代にわたり伝えられたこのみ教えを感謝と共にいただき、永代にわたり伝えていこうという尊い営みなのです。

新シリーズ「癌と共に」 第三回

「死の受容と不安について」

【現状報告】

こここのところ、ずっと入退院を繰り返しています。数えてみると、ここ五カ月で七十日

くらいの入院になりますか。でも、体感は8…2くらいで、病

院生活の方が長く感じています。とはいえ、悪くなっているわ

けではありません。癌は大きくもならず、転移もしていません。

ただ先生としては、もう少し小さくなって欲しいということで、

「この薬の方が合うのでは」と試行錯誤されるわけです。

薬が変わると、副作用を見るために三週間入院が伴います。

その後、一週間空けて二泊三日、一週間空けて二泊三日と薬を

入れる短期入院を繰り返し、様子を見て。また薬を変えること

になれば、三週間。その後一週間空けて…と続くわけです。

～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KA

正直、もう病院には飽きました。入院された経験のある方はお分かりになられるでしょうが、病院にいただけで、病気になるそうです。やっぱり家がいいですね。今は、家の有難さを感じています。

メメント・モリ（死を思え）

さて、近頃は薬の研究が進んだことで、癌の生存率は、昔よりかなり高くなっているようです。とはいえ、癌を告知されたことをきっかけに、頭のどこかでいつも死を意識しながら生きるようになりました。ただそれは、ネガティブな感情ではありません。

ラテン語に「メメント・モリ（死を思え）」という言葉が

あります。この言葉について思想家の

内田樹先生は、「当分オレは死なないだ

ろう」と高をくくって暮らしている場

合よりも、生きている時間の質が高ま

る。ひとつひとつの経験の意味が深ま

り、ひとつひとつの愉悅の奥行きや厚みが増す。生きることの

深みや厚みや奥行きを味わい尽くしたいと願うなら、「死を思

え」。そう理解しているとされています。（『困難な成熟』内田樹）

いや、本当にそうですね。もしかしたら、これが最後の出

会いになるかもしれないと思うと、この一時が愛おしくて。家

族と話しながら、「あなたたちと出会えて、良かった」「あなた

と出会えたからこそ、私の人生はこんなにも豊かだった」と感

じられたり。そんなことって、普段は気恥ずかしくて素直に思

えないし、口にも出さなんてとんでもない。ところが「死」を

リアルに突きつけられると、意外や意外。素直に思えてくるの

です。死を意識することが経験の意味を深め、愉悅の奥行きや

厚みを増すという内田先生の指摘には、肯くばかり。ただ、



～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～

死と向き合うには、やはりそれなりの段階が必要ではあるよう
です。

死の受容過程

アメリカの精神科医であるエリザベス・キューブラー・ロスは、「死の受容過程」を五つの段階で示しています。

現実を受け容れられず（否認と孤立）、憤りに捉われて周囲

に怒りをぶつけ（怒り）、信仰心がなくても神仏に「助けて欲

しい」とすがり（取り引き）、悲観と絶望に打ちひしがれ（抑

うつ）、最終的に現実を受け容れ、心の平静を取り戻してく

（受容）という過程です。ただし、この段階通りに辿って行く

とは限らないようで、行きつ戻りつ葛藤を繰り返す人もあり、

一方では、達観して早い時期に受容する人もいるのだとか。

とはいえ、いくら頭で理解していても、現実を突き付けられ

ると、大多数の人が狼狽えるのではないでしょうか。達観し、

すぐに受容できる人の方がまれでしょう。ちなみに、「どうせ

死ぬなら」と投げやりにふるまうことを、受容とはいいいません。

私の尊敬する宮城顥先生は、癌の告知を受けたときに、いろんな癌患者の方の手記を読まれたそうです。ただ、最後まで力強く生きられた方の手記には「凄いなあ」という思いと同時に、「私にはできないなあ」という思いも持たれたといわれます。不安の中で、あっちに行ったり、こっちに行ったりと、よろめきながら歩まれた手記の方が、共感できた。

確かにそうだと思います。強い人の話は、参考にはなりません。だって、私は弱いから。行きつ戻りつ葛藤する人の方が、身近

に感じます。こんなことを

書くと、「いやいや、あんた

だって、私からみたら強い

人だよ」と思われる人もあ

るかもしれません、いや

いや、そうではないのです。

私の場合は、次男の病気を

経験していたこと、そし

死の 受容 過程

① 否認



② 怒り



③ 取り引き



④ 抑うつ



⑤ 受容



～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～

て先輩の言葉を通して、もう一度お念仏の世界と出遇い直せたから、今受容できているのだと思います（第一回を参照）。

つまり、すでによりぬいた経験があるから、今このように受け容れられているわけで。だから、自分の弱さは織り込み済みなのです。もちろん、今でも不安はあります。これからまた、よろめくのもかもしれません。そもそも、人生において不安はつきものですから。でも今の私には、立ち返る場所、確かな拠り所があるのです。だから不安になっても、不安ではありません（ややこしくて、すみません）。

逆に不安に怯え、不安を消そうと過剰に反応することで、生きている時間の質は確実に低下します。そのことも、すでに私は経験済みなのです。

不安には根拠がない

実は、不安には根拠がない。そう指摘しておられるのが、東

京大学大学院講師の舟津昌平先生です。

「今日、家の鍵を閉めたかな」「もしかして、陰で笑われているかも」「私だけ、みんなに乗り遅れてるんじゃないか」。不安とは、ある時何の根拠もなく、ふっと思ってしまったことで起こるのだと。

それは私たちの日常を支えるものが、根拠のない自信だからなのでしょう。事件や災害が起こる。「大丈夫だろうか」と不安になる。ところがしばらくすると、慣れたり忘れたりして「大丈夫だろう」と以前の日常に戻っている。どちらも、何の根拠もありません。根拠がないから、それが揺らぐと不安が起きる。そして時間が経てば忘れ、また揺らぐ。この連鎖は、いつまでも止まりません。それほど人間という存在が、愚かで弱いということなのでしょうか。

実は舟津先生に、興味深い指摘があります。なんと、この「不安には根拠がない」という人間の本質を利用した商法が、昨今一般化しているのだと。

例えば、ある就活（就職活動）仲介サービスの企業では、学生に「一回生の時から就活しましょうね。隣の友達が内定を

～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～

もらっているのに、自分がもらっていないかったら嫌ですよ」と語りかけ、「私たちに『ご相談を』と、さも当たり前のようにアピールするのだとか。それを見た舟津先生は、「最近の企業は学生を脅し不安を煽ってでも、ビジネスチャンスを得ることに全く躊躇がない」ことに、愕然としたそうです。しかも近頃の学生たちにとって、友達から取り残されることは死活問題になっている。そんな現状を、きっちりリサーチした上で。

消臭剤ビジネスも同様です。

「あなたはクサイかもしれない」と

不安を煽る。自分がクサイかどうか

かを知覚するのは難しいことです

が、一旦「におうのではないか」と不安になりさえすれば、ず

っと買ってくれる。

ともかくにも、彼らは物凄く顧客調査をしていて、人がど

こを付かれると不安になるかを理解している。そして不安を利

用して、需要を生み出している。不安には根拠がないから植

付けやすいし、煽りやすい。ビジネスにするにはうってつけ。



この方法論は、誰もが聞いたことのある大手企業も、率先して取り組んでいるのだそう。何とも、世知辛い世の中です。（『世代化する社会』舟津昌平）

不安は消せない

しかし死に関しては、確かな根拠があります。誰もが死から逃れられないことは、厳粛な事実です。それを私たちは、「当分オレは死なないだろう」「まだまだ大丈夫」と、根拠のない自信で誤魔化してはいないでしょうか。だから、自身が死を突き付けられたら、近い人が亡くなったら、その自信が揺らいで慌てふためく。それがキューブラー・ロスが指摘する、「受容」までの四段階なのでしょう。しかも、自信が揺らぎ不安が起きた状況をビジネスチャンスとして狙っている人が多い時代に、私たちは生きていくわけですから、これもまた恐ろしい。

では、不安とどう向き合えばよいのでしょうか。現代社会の

～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～

多くの人は、不安は消すことが解決だと考えています。しかし残念ながら、誰もが不安から逃れられません。その上、どこを付くと不安になるかを研究した大手企業が、率先して煽っているわけですから、なくなるはずありません。

そして宗教の役割さえも、不安を消すものとして考えられてはいないでしょうか。しかし私は、親鸞聖人が指示してくださった阿弥陀さまの教えによって、「不安は、消せないんだ」「消さなくてもいいんだ」と気づかされたのです。

確かな拠り所があるからこそ

以前、友人の住職が、白血病で亡くなりました。彼は病気を告知された時も、その後の治療過程においても、現実を真正面に受け容れて、日々を精一杯生き抜こうとする人でした。そんな姿に、私は常々尊敬の念を抱いていました。その彼が亡くなる少し前のこと。久しぶりに会える機会がありました。

その時彼は、こんな話をしてくれたのです。「周りから見

たら、僕はいつも前向きに生きる、強い人間だと思われる
かもしれませんが。でも、こんなボクでも、不安で眠れない時が
あるんですよ」と。

骨髄移植を受けても、病状は一進一退。なかなか回復には至

らない。「明日の検査は、良い数値がでるかな。また、ダメな
のかな」、そんなことを思うと、大きな不安に襲われて眠れな

くなる。不安は、また不安を呼び深まっていく。真っ暗な底の
ない闇に落ちていくような感覚に、恐怖を覚える。自分自身が

見失われ、ただただ否定的な考えしか思い浮かばない。前向き
な言葉、立ち向かおうとする思いなんて、まったく出て来ない。

「そんな時、フツと聞こえてきたんです。阿弥陀さまが受け
止めてくださる。阿弥陀さまにおまかせするしかない。お説教

で聞いた言葉が思い出された時、落ちていく感覚が止まったん
です。この拠り所があるからこそ、我に返ることができた。こ

れが、どれほど有難いか。どんなに大きなことか」。

彼は、不安がなくなったと言っているわけではありません。

不安を抱えたままの私が、受け止められる世界と出遇えた。

～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～

その時、地に足が着くように、我に
返ることができた。この確かな拠り
所と出遇えたよろこびを、語ってく
れたのです。



このようなことを書くと、「そもそも、仏さまや阿弥陀さま
こそが「根拠のない」ものではないのか。結局は根拠のない自
信で、誤魔化しているだけではないか」と言われる方があるか
もしれません。しかし、私の先を歩んでくださる方の足取りは、
確かなのです。不安の中で、あっちに行ったりこっちに行った
りしながらも、受け止められる場所に立ち返り、我を取り戻し
ていく。その歩みに、頼もしさを感じるのです。だからこそ、「目
には見えなくとも、ここには確かな道がある」「この拠り所は
確かだ」と知らされるのです。

何より阿弥陀さまは、「不安を消さないダメだよ」とは言
われません。不安を煽ることもされません。人間である限り、
不安はつきものだとして認めてくださる。人間の弱さを、その

ままに受け容れてくださる。だから私も、安心して不安になれる（やっぱり、ややこしいですね）。

おまけに、この拠り所に立ち返るとき、生きている時間の質が高まるのです。ひとつひとつの経験の意味が深まり、ひとつひとつの愉悅の奥行きや厚みが増していくことを実感しています。

不安が歩みを生み出す

ちなみに、真宗大谷派の僧侶・安田理深師は、不安こそが阿弥陀さまのはたらきだといわれました。根拠のない自信が揺さぶられ、不安が起こるからこそ、「これでよいのか」と自らを問い直す営みが始まる。自分の人生を見つめ直すことも、確かな拠り所を求めようとします。その歩みの背を押すものこそ、阿弥陀さまのはたらきであり、不安こそが阿弥陀さまそのものなのだ。

今の私には、深く肯ける話です。確かに不安がなければ、自

～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～

分の人生を問い直すなんて、なかなかしませんよね。哲学者のマルティン・ハイデカーは「不安は私たちを存在の根源的な意味の前に連れ戻すはたらきをする」といったとか。やはり、不安は消そうとするものではなく、向き合うべきものであり、確かなものを求めるよう背中を押してください、大切な縁とい

ただくべきだと思います。

不安を通して、我を見失う人がいる。しかし、不安を通して、自分の人生と向き合い、自分の立ち返る場所を確かにする人も

いるのです。

よろめきながらも、確かな足取りで歩まれた方々の歴史が、死の現実を、そして自分の人生を受容する道を、私に指し示してください。■



お取越しの季節です



お寺にご連絡下さい。
日程を調整した上で、
お参りにうかがいます。

「お取越し」とは、真宗寺院において

最も大切な行事である親鸞聖人のご法
事「報恩講」を、ご命日よりも取越し
て（早めて）各家々で勤めるという、

真宗門徒にとって大切な伝統行事です。

親鸞聖人は、誰もが尊ばれ敬われる

お念仏の教えを、一生をかけて明らか

にされました。その苦労があったか

らこそ、私の人生を尊び、敬うことが

できるといだけた先輩方が、この

行事を大切にされたのです。

近頃は、「自分の人生を尊ぶ」ことの

意味が、わかりにくい時代になりました

た。だからこそ、この行事の重要性も

高まっているのではないかと、住職は

考えています。

若院通信

じゃくいん
つうしん



気温も落ち着き、まばらに雨が降り始めて
秋らしくなりました。寒暖差も激しく、体調
を崩しやすい時期でもあります。私も少し
鼻声になっています。

お取越しの時期になりましたので、多くの
門徒さんの家にお参りしています。まだまだ
家の場所とお名前を覚えていないところ
が多いです。

しかし、配り物やお盆、今回のお取越しの
ような機会、直接伺うことで、少しずつで
はありますが、身についているように感じて
います。■

河津桜が心配です



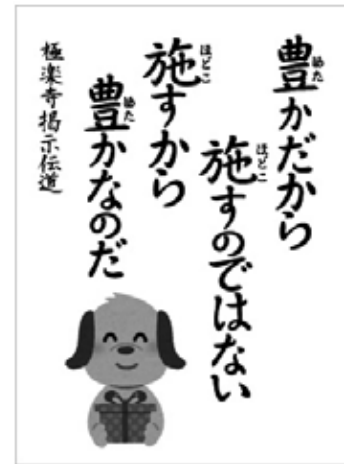
毎年二月末には、綺麗な花を咲かせ、私たちを楽しませてくれる
極楽寺駐車場の河津桜。どうもおかしいのです。早くから葉っぱ
が枯れて、八月末にはすっかり葉が落ちてしまいました。病気な
のでしょうか。住職は、とっても心配しています。

極楽寺だよりを
送riませんか？

都会に出ておられる子どもさん、
お孫さん、有縁の方々へ。
お寺へお申し出下さい。直接郵送します。
送り先が増えると、住職はうれしいのです。

月々の言葉

Monthly Words



10月の言葉

以前、ご門徒のおばあさんが亡くなられた時のことです。娘さんたちは、皆嫁がれているので、もう家を継ぐ方はいない。そんな状況でした。

さて、お通夜が終わった後のこと。娘さんたちが、相談に來られました。実家の隣に住んでいるおばあさんから、「あなたたち、ちゃんと近所の人たちに挨拶して御礼を言わないといけないよ」と言われたそうなのです。

「こちらの方では、そこまでしなくてはいけないのですかー」と、少し怒気を含んだ口調で尋ねられました。そこで私は、「おばあちゃん、近所の人たちと一緒に生きてこられましたか」

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

らね。最後に一言、御礼を言うくらいはしても良いのではないかと思いますよ」と答えました。すると、ハッと我に返ったように「そうですね」と肯かれ、憑き物が落ちたように、今度は積極的に挨拶まわりをされたのです。

私はその時、ふと恐ろしいことに気づいてしまったのでした。私たちは無自覚に、ある考えを刷り込まれているのではないかと。まさに、マインドコントロールに近い状況にいないのかということ（陰謀論ではありません。ご安心を）。

近頃の私たちは、「これは、しなくてはならないよ」と言われると、反射的に「強制」や「押し付け」だと受け止めてはいませんか。いや、「私は、自由を侵害され、負担を強いられている」と、極端な被害者意識を持つ人さえいる時代です。もちろんそこには、実際に強制や



ハラスメントのケースもあります。しかし、すべてをそうだと決めつけるのは、あまりにも浅慮に過ぎます。

考えてみれば私たちは、先人から多くのものを受け継い

できました。ところが最近、その内容を吟味することなく、
目先の「快適か」「効率的か」「合理的か」ばかりを追いかけて、
「面倒くさいこと」「非効率的で非合理的なこと」は、すべて切り捨てる、そんなマインドに染められているのではないでしうか。だから、自分が嫌なことは、すべて「強制」「自由の侵害」「負担」だと決めつけてしまうのではないですか。

でも私は、一般的にネガティブな感情として敬遠される「悲しみ」や「痛み」が、豊かな成長を促し、大切な学びを生むことを、葬儀の場で目の当りにしてきました。人生の深さは、目先の効率性や合理性では、量り知れないとも、思い知らされていきます。ただそれらも、近頃は「効率」が優先され、「負担」だと感じられ、簡略化されている。本当に、寂しい限りです。

ともあれ、娘さんたちが私の一言で行動を変えられたのは、子どもの頃の思い出が蘇り、具体的に手触りのある関わり合いが呼び起されたからではないかと思うのです。

大袈裟かもしれませんが私はそこに、刷り込まれていた考えから離れ、人間としての温もりを取り戻した姿を、感じたの

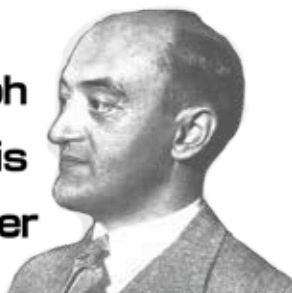
Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

です。まさに、「我に返った」「憑き物が落ちた」という表現がピッタリだと思いました。

では、なぜ私たちは、ここまで目先の効率性や合理性に捉われているのでしょうか。

実は、20世紀前半を代表する経済学者ヨーゼフ・シュンペーターが、興味深い指摘をしています。資本主義が広がっていくと、合理的な思考が人々に蔓延する。すると、非効率的な行為や非合理的な考えは排除されていく。次の世代にならないと結果が出ないような研究は、非効率的だと見られ投資されなくなる。すぐに結果が出るもの、目先の損得ばかりを追いかけるようになって、いつしか「自分が死んだ後のことなんか、知ったことか」「自分が楽しめればいい」「生きているうちにすべて消費してしまおう」という長期的な視野を失った人びとを生み

Joseph
Alois
Schumpeter



出すのだと。

現代社会の有リ様をそのままに表しているようなシュンペーターの指摘は、約八十年前に予見よけんされたもの。何という慧眼けいがんなのでしょう！

※ちなみに、プロ野球のオリックスバファローズ

で二〇二三年に新人王を獲得した山下舜平やましたしゅんぺい

太投手は、シュンペーターにちなんで命名さ

れたのだそうです。



ところで、ミープ・ヒースというオランダ人の女性をご存知

でしょうか。彼女自身はあまり知られていませんが、彼女が助

けた人はよく知られています。彼女は、『アンネの日記』の作

者アンネ・フランクの一家を、ナチス・ドイツの迫害はくがいから守り、

匿かくまっていた人なのです。ヒースはごく普通の事務員でしたが、

二年間もの間、アンネたちの隠れ家かくがに食事や本を届け続けまし

た。

実は彼女自身、子どもの頃に助けられた経験を持っていま

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

す。第一次大戦後、大変な不況ふきょうがヨーロッパを襲おそいました。こ

のとき、オランダの労働者たちろうどうしやが列車を仕立てウィーンに走ら

せ、飢うえている子どもたちを引き取り、元気にして帰かえすという

運動を始めたのです。もちろんオランダの労働者たちだって、

貧ますしかったし、ゆとりがあるわけではない。でも、二人育てる

のも三人育てるのも、たいして変わりはない。もう少し努力す

ればできる。そう考えた人びとが運動に加わりました。ミープ・

ヒースはそうして、ウィーンから連れてこられた子どものひと

りだったのです。『幸福に驚く力』清水真砂子

ヒースたちの時代よりも、私たちが生きる現代社会は、遥はるか

に恵めぐまれた環境だといえるでしょう。確かに、モノに溢あふれては

います。しかしそれぞれが自分のモノを握にぎりしめ、分かち合あう

こともない。目先めさきの損得そんとくばかりを優先ゆうせんし、お付き合いや支え合

いなど考えない。そんな考えが蔓延まんえんしているのではないでしょ

うか。ましてや、「二人育てるのも三人育てるのも、たいして

変わりはない」と言えるようなマインドは、すっかり失ってい

ます。

私たちは、実は心貧しい生き方をしているのでしょうか。豊かなだから施すのではない。施せる人が豊かなのだと、つくづく思
い知らされます。

またヒースは、「私はヒーロー
などではない。／もっと多くの――



はるかに多くの――ことをした良きオランダ人たちの、長い長い
列の端に連なっているにすぎない」(思い出のアンネ・フランク)と語っています。私に先立って、多くの人たちがなされた良き
おこないに、私は連なっているだけ。その歴史を受け継ぎ、列
の端にいただけなのだ。そこには、確かな温もりと、具体的
な手触りがあります。広々とした心と深い豊かさが広がって
います。

ならば、私たちが今取り戻すべきは、長期的で広い視野では
ないでしょうか。私のところにまで至り届いている、良き人び
との歴史に出会い直す。大きな世界の中に、自分を見出して
いく。そこから、私に関わってくださっている多くの人びと

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

と出遇い直していく。そんな長くて広い視野を。

ただ、合理的なマインドが染みついた現代社会に生きる私
ちにとって、長くて広い視野や、人間としての温もりを取り戻
すことは、かなり難しいことだと思えます。でも、それを取り
戻すお薦めの場所があるのです。それは、手前味噌になります
がお寺です。

お寺は、非効率と非合理性の最たるものといえるでしょう。
だから、良いんです。だからこそ、合理的思考とは違う枠組みで、
ものを見たり考えたりできる。頑なな考えが揺さぶられるので
す。何より、長い伝統があります。極楽寺の本堂は、たかだか
二百年くらいの建物ですが、その二百年という時間の流れを感
じることが出来る場所は、なかなか身近にはありません。

長い歴史と大きな関係性の中に、今の私の人生があることを
味わう。私に届けられた恩に目覚め、自分のいのちの深さと重
さを味わっていく。それがまさに、お寺という場所なのだと思
います。



極楽寺
ホームページ

極楽寺.comで検索
又はQRコードから



ただ正直言うと、今や私たちお坊さんにも、合理的思考が染みついていっているのも事実です。そうになると、お寺の存在意義も揺らぎかねません。我に返り、しっかりと危機意識を持っていかなければと思う、今日この頃です。■

2032年完成予定 納骨堂新築に向け 十年計画スタートしています

新規加入者 募集中です！

- ◆ 納骨堂は、お墓を建てるより、費用を抑えることができます。また、維持管理の面やお参りのし易さも、納骨堂の利点だと言えるでしょう。
- ◆ 合同墓、小区画など、様々な形を考えています。お気軽にご相談下さい。
- ◆ 建った後に「入りたい」と言われても、空きがなければ難しくなります。今のうちから、どうぞご検討、ご相談ください。



11月の言葉

私のようなオジさんには理解できないのですが、近頃はS

NSなるものに「どこへ行った」「何を食べた」「今、何してる」

と写真に撮り、公開することが当たり前なのだそうです。娘

の友人も、普通に行っていますし、「今さら何を言ってるのか」

とバカにされそうなほど、一般化しているようです。でも個

人情報を過剰に隠し、プライベートに踏み込まれることを嫌

う人が多い時代に、一方では、知らない誰かにプライベート

を公開するってどういうこと？もちろん、見せ方に匙加減は

あるのですが、なぜそこまで？オジさんには理解できな

いと、常々思ってきたわけです。

一説によると、これらは「承認欲求」といわれる行為な

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

のだとか。自分の行動や意見を、「いいね！」と認めてもらいたい。たくさんの人に、共感されたい。注目されて自慢したい。それが「承認欲求」なるもの。なるほど、そういう気持ちなら、私にも少なからずあります。

ただ、仲間内でやるならまだしも、ここまでしないといけないのかなとも思うのです。「いいね！」を増やすために、他人の目を気にし、ウケを狙い、迷惑行為や過激な言動にエスカレートすることもあるわけで。何やら、小さな子どもが「見て見て！」としつこく繰り返しているような、というのはい過ぎでしょうか。

小さな子どもには、自分の行為を親や身近な人に、「見て見て！」とアピールする時期があります。実はこの「見て見てアピール」の理由も、「承認欲求」なのだそうです。誰もが、自分が頑張ったことや、できていることを認められ、ほめられて、成長していく。やはり私たちは、他者から



認められることによって、自分を確立していく生き物なのでしよう。

但し、このアピールがしつこい場合には、また別の理由があるようです。それが「不安」や「寂しさ」です。メディアでも活躍中のカリスマ保育士で先生は、「パパ・ママが忙しいとか、下の子に手がかって自分に対する愛情が確認できないといったとき、その不安や寂しさから『見て見て』が続くパターンがある」と指摘しています。

ならば、SNSの過度な承認アピールも、実は、不安や寂しさその理由にあるのではないか。しかも、かなり深刻な問題を抱えているのでは。私はそう睨んでいるのです。



政治学者の宇野重規先生によると、「近代」という時代は、縛りつけられてきた「個人」を解放することを、目的の一つとしたのだそうです。古くから続く伝統や慣習、人間関係は、しばしば個人の自由を束縛し、服従を要求します。これ

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

に対し「近代」は、個人の自由を重視し、個人の選択を原則として、社会の仕組みやルールを作り変えようとした。

例えば昔は、「家」の存続が優先されました。結婚は「家」同士が結びつくものでした。それが、「個人」同士へと変わり、いわゆる「核家族」化も進みました。親の言うことに従い、親の仕事を受け継ぐことも少なくなり、親戚や地域、職場のつき合いも、当たり前から煩わしいものへと変わっていきます。つまり、与えられた人間関係を、自分で選んだものへと変えていく過程、それが「近代化」の一面だといわれるのです。

そしてもう一つの特徴として、「宗教」聖なるもの「からの解放もあげられます。人間を超えた「聖なるもの」は、畏れるべき対象であると同時に、人々にあるべき姿、進むべき道を示してくれるものでした。同時に、人々を強く縛りつける側面もありました。この「宗教」聖なるもの「から人々を解放し、個人の意志を新たな価値の源泉とした

のが「近代」だと指摘されるのです。(参考『私』時代のデモクラシー』宇野重規)

確かに私たちの世代にとって、ロックバンドの歌う「自由」という響きは、キラキラした憧れそのものでした。ところが新自由主義経済が世界を覆い、自由競争が過熱すると共に、富める者はますます富み、貧しい者はますます貧しくなっていく、そんな「自由」の残酷な一面を突きつけられました。「聖なるもの」から解放されたことで、欲望へのブレーキもかからなくなりました。規制は自由を妨げるものだと、公共サービスは低下し、今のあなたの惨めさは、すべて自己責任となる。これはかなり過酷な環境です。不安や寂しさが広がり、生きづらくなるはずですが。

何より、「誰にも縛られたくない」というけれど、同時に人間は、誰かとつながっていたい、承認して欲しいと思う矛盾を抱えた存在ではないですか。そのつながりさえも、すべて個人の力で



Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

獲得しなくてはならないというのも厳しい話です。にも関わらずここ十数年で、個人化・孤立化の傾向はますます加速し、人間関係は大きく変わってしまいました。

このような背景を思うと、SNS上での「見て見てアピール」は、まさに近代化の結果として生まれた「不安」や「寂しさ」を象徴しているように見えるのです。迷惑行為をしなくても、何とか承認を得ようとする姿には、切実ささえ感じられます。しかもそれらは皮肉なことに、他人の目を気にし、ウケ狙いに走る、不自由で縛られた状況なのです。これはかなり深刻な問題だと思います。生きづらくもなるはずですが。こんな状況を次の世代に遺す私たちは、その罪深さと向き合う責任があるのではないのでしょうか。

では、どうすべきか。近代化が加速するまで、私たちを承認し、支えてきた人間関係(家族、親戚、地域コミュニティ、会社等)は、すでに瀕死の状況にあります。だからといって、一足飛びに「国家」「国民」「民族」といったものに飛躍するのは危険です。それらは必ず、過剰な束縛と服従、排除

を強^しいてくるのですから。歴史をふり返れば、一目瞭然^{いちもくりようぜん}。ただ昨今、その傾向^{けいこう}が強^こまっていることが、正直恐ろしい…。

そもそも仏教では、どんなに正しい

ことであつても、執着^{しゅうちやく}し、偏^{かたよ}つてはいけないのだと説きます。

「個人^{こじん}」の解放^{かいほう}に執着^{しゅうちやく}すると孤立化^{こりつか}へと偏^{かたよ}り、それを強引^{きやういん}に

引き戻そうとすると、全体化^{ぜんたいか}へと偏^{かたよ}る。これは、簡単に解決

できる問題ではありません。安易^{あんい}で、わかりやすいスローガ

ンに飛びついても、その揺り戻し^{ゆりもど}は大きく、傷跡^{きずあと}もまた深く

なるのです。

ならば、どうするか。これはあくまでも細やかな一歩^{さく}かも

しませんが、私は浄土真宗^{じやうどしんしゆう}にご縁^{えん}のある方には、阿弥陀^{あみだ}さま

まとの出遇^{であ}いをお薦めしたいのです。

一旦^{いったん}、社会^{しかい}の仕組みやルールが作り変えられてしまうと、

それ以前の状態^{もど}に戻るの^{もど}はかなり難^{むず}しいことです。しか



Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

し、「聖^{せい}なるもの」阿弥陀^{あみだ}さま」に立ち返^{かへ}ることは、いつ、どのような状況^{かうじう}でも可能^{かんのう}です。阿弥陀^{あみだ}さまは、「大悲無倦^{だいひむけん}常^{じょう}照我^{しょうが}」(『正信偈』)、私たち^{わたしたち}がどんなに忘^{わす}れていても、背^{そむ}いても、倦^うむことも無く、私^{わたし}を照^てらし、待^{まち}ち続^{つづ}けてくださっている仏^{ぶつ}さまなのですから。

ちなみに、阿弥陀^{あみだ}さまと出遇^{であ}うとは、束縛^{そくばく}の中に身^みを置くものではありません。妄信^{もうしん}的に信^{しん}じることでも、思^{おも}い込むことでもないのです。私^{わたし}は、これを「等身大^{とうしんだい}の自分^{かみ}に帰^{かへ}る」ことだと考えています。

弱^{よわ}さや愚^{おろ}かさを抱^{かか}えた私^{わたし}が、そのまま認^{みと}められ、受け容^{うけい}れられる。つまり、「承認^{しやうにん}」が無^む条件^{じょうけん}に与^{あた}えられるのが阿弥陀^{あみだ}さまの世界^{せかい}です。だから人と比^{くら}べることも、他者^{たしや}のウケを氣^きにすることも、「見て見てアピール」も必要^{ひつやう}ない。自分^{おのれ}を大きく見^みせることも要^いらないし、弱^{よわ}さを隠^{かく}さなくてもいい。自分^{おのれ}は自分でしかないこと^{うなず}に肯^{うなず}き、素直^{すなお}に頭^{あたま}が下^{くだ}がり、過^{あやま}ちや愚^{おろ}かさにも安心^{あんしん}して向^{むか}き合^あえる。つまり、阿弥陀^{あみだ}さまと出遇^{であ}うことで、「等身大^{とうしんだい}の自分^{かみ}に帰^{かへ}る」ことができる

のです。

とはいえ、私たちは社会の中を生活しているわけですから、その影響から「不安」や「寂しさ」を感じることもあるでしょう。フラフラすることだってあります。しかし、立ち戻る場所、拠り所があるからこそ、我に返ることもできる。誰に何と言われようと、「阿弥陀さまが、知っていてくださっていたら、よいではないか」と、自分の人生を確かに歩むことができる。このような道が、お寺という場を通して、私たちには伝えられているのです。

こんな歩みをする人と出会ったら、人生は変わります。環境は変わらなくとも、世界との向き合い方は確実に変わります。私たちには、無条件の承認を与えてくださり、等身大の自分に帰ることができる「聖なる」世界が用意されているのです。

せめてこの歴史を、このような生き方があることを、過酷な状況にある次の世代に伝えなければと、強く思っています。細やかではあってもこの一歩こそが、人生を確かなものとしていくものだとも思うのです。■



物でお布施

mono de ofuse

家庭で眠っている物を、活かしませんか

書き損じはがき・未使用切手 CD・DVD・未使用テレホンカード

ゲームソフト・ゲーム機器・商品券・ビール券など金券

仏教の精神にもとづき活動するNPO法人『アーユス仏教国際協力ネットワーク』に送り、海外の難民支援や国内災害の被災者支援に使わせていただきます。



プルトップも、集めています！

本堂に設置してある回収箱に、お入れください。



仏事、葬儀、納骨…、わからないことや
困ったことがあれば、極楽寺にご相談ください。
ご遠慮なく、どうぞ 0837 (43) 0625



□ 今年の夏は、入退院を繰り返していたので、^く厳しい暑さを感じる間もなく終わったような気がします。なにせ病院は、二十四時間空調が効いていますから。とはいえ、快適な生活をしていただけではありません。薬を新しいものに変更したことで、副作用の吐き気が酷くなり、結構大変でした。病院では、食器やシーツ、トイレなど、至る所で消毒液が使われます。私の場合は、その消毒液の独特なにおいを嗅ぐと気持ち悪くなっちゃって。だから、病院の食事がとれず、売店の弁当ばかり食べていました。でも弁当はすぐに飽きるし、消毒のにおいは至る所にあり…。気を紛らせようとカープの試合を見ても、逆に具合が悪くなるようなゲームばかり。散々な夏でした。□ そんな状況の慰めになったのが、作家・北方謙三の『大水滸伝』シリーズです。中国明時代に書かれた古典文学『水滸伝』（1973年に中村敦夫主演でドラマ化されました）を、大胆に再構築し、新たな命を吹き込んだこの作品。『水滸伝』全19巻、『楊令伝』全15巻、『岳飛伝』全17巻、合計51巻という大長編小説です（実はこの流れに『チンギス紀』17巻があって、その流れを受けて、最終章となる『森羅紀』の連載が始まっています）。一度読破してはいますが、登場人物も多いし、最初の方はどんなだったかわからなくなったりして。常々、もう一度きちんと読み直したいと思っていたのですが、今この時しかない！と読み始めると、やっぱり面白くて。ツライ病院生活と、ツライカープの状況を慰めてくれました。何より北方謙三は、人間の描き方が深いんですよね。一人の人間が持つ強さと弱さ、清らかさと醜さ。乱暴なふるまいの中にある繊細な優しさ。大きな理想に生きる豪傑が、細やかなことに心乱され苦悩する姿が、描き込まれている。私はここに魅かれるのです。□ どうやら来年、織田裕二、反町隆史の主演で、WOWWOWがドラマ化するようで、でも、林冲役が亀梨和也くんか。それはちょっと違うんじゃないかなあと、病室で思ったりしている今日この頃です。（住）

似てますか？



薬の副作用で髪が抜けたので、丸刈りにすると、「前住職とそっくりだ！」と、いろんな方から言われました。確かに、頭の形は似ているなあとは思いますが、如何でしょうか。写真を並べてみると、私の方が明らかにガラが悪く、悪役レスラーのような気がするのですが。



次回法座の予定

仏婦報恩講 12月18日（木）

除夜の鐘つき 12月31日（水） 元旦会 1月1日（木）

御正忌報恩講 1月15日（木）～16日（金）